

教務委員会への質問

國學院大學 経済学部 小木曾 道夫

本日の経済学部 教務委員会・執行部合同会議へ田原教務部員から 8 月 31 日にメールにて出席を要請されましたが、食道癌の化学療法中のため医師が出席を認めなかったため、欠席いたします。

下記に示した「小木曾教授の後期授業への対応」に対して、つぎの質問をいたします。もし、2009 年度後期のアンケート調査実習 A を休講するならば、当該科目を履修したいと希望するかもしれない学生に対して、教務委員会の責任において休講する理由を情報提供することを要求いたします。さらに、つぎの訂正ひとつを要求いたします。

質問 1 2009 年度後期のネットワーキングの基礎（月 2）・アンケート調査入門（月 5）・ネットワーク型組織（火 2）は開講するのに、アンケート調査実習 A（月 4）だけ休講する理由は何か。

質問 2 2 年生がアンケート調査実習 A を受講する権利を確保すること＝アンケート調査実習 A を開講することよりも、2 単位狙いの 4 年生にアンケート調査実習 A を受講する権利を奪うこと＝アンケート調査実習 A を休講することの方が重要である理由は何か。2006 年度社会経済調査の基礎の受講者と、2007 年度アンケート調査実習 A の担当者であった小木曾が納得できる理由を教務委員会で調べていただきたい。

質問 3 田原教務部員は何の権限と根拠を持って、アンケート調査実習 A を休講することによって、2・3 年生がアンケート調査実習 A を受講する権利を奪おうとしているのか。

訂正 1 アンケート調査実習 A を 2 年前期、アンケート調査実習 B を 3 年前期に標準配当する変則的な開講形態をとった理由は、「コンピュータ教室の設備の制約」のためではなく、フィールド・スタディを同時に履修した学生がレポートを執筆する時期をずらすためである。

記

第 9 回経済学部執行部会議（2009.8.28）

小木曾教授の後期授業への対応

小木曾教授より、入院・療養のため後期の授業担当について、配慮の申し出があった。急を要するため、第 9 回経済学部執行部会議において本人の同席のもとに対応策を検討した。

早期に復帰して授業を担当したいという本人の希望を踏まえ、教務課長、人事課長とも相談した結果、休職はせず、平常点科目については代講、それ以外の講義科目については、1科目を除いて代講を立てず、補講期間を活用して本人が担当することになった。専門演習については本人の責任のもとにゼミ生と相談して対応する。

対応策は以下の通り。

代講を立てるもの（平常点科目であるため）

- ・ 基礎演習 B（月 1）・・・代講は古沢先生 ご了承済み
- ・ 基礎演習（再）（火 6）・・・代講は久保田先生 交渉中

☆代講については、当該時間帯の前後に授業を担当しておられ、かつ、その曜日の担当コマ数が少ない先生に依頼

小木曽教授本人が担当

- ・ ネットワーキングの基礎（月 2）
- ・ アンケート調査入門（月 5）
- ・ ネットワーキング型組織（火 2）

休講

- ・ アンケート調査実習（A）（月 4）

☆ 当該科目は本来、通年科目として開講すべき科目であるが、現行カリではコンピュータ教室の設備の制約から2年後期と3年前期に分けて（セメスター）開講しており、来年度からの新カリでは2年前・後期の通年科目として開講する。移行期間にあたる今年度・来年度については、今年度後期に旧カリ学生のためのAを開講し、来年度前期に旧カリ学生のためのBと、新カリ学生のための通年科目を別々に開講する予定であったが、今年度Aを開講せず、来年度前期・後期に旧カリと新カリの合併授業として開講しても、学生にとっての不利益は2単位狙いの4年生に限られる。本来、この科目は通年で履修すべき科目なので、限られた学生への配慮より、（補講期間の時間的制約と）小木曽教授の負担の軽減を優先し、休講とする。